

# 奈良のむかしばなし

第57話



奈良に古くから伝わるむかしばなしをご紹介します。

## 肘切り門

文・山崎しげ子

ハイキングコースとして人気の高い山の辺の道。天理市の石上神宮と桜井市の大神神社のほぼ中間にある長岳寺。総門（大門）は、別名「肘切り門」といわれ、今回はその名の由来についてのお話。

昔、尻掛則長という刀鍛冶の名人がいた。則長の鍛えた刀はよく切れると評判だったので、長岳寺のお坊さんも「ぜひ私にも作ってほしい」と頼んだ。

ところが、何日たっても音沙汰がない。しびれを切らしたお坊さんはある日、則長の仕事場へ様子を見に行ったら、「トンテンカン、トンテンカン」と心地よい音が響いていたが、窓からそっと覗くと、真っ赤に燃える火は、炭火でなくモミガラの火だった。

「なんや、火力の弱いモミガラか。ええ刀ができるわけがない」と、がっかりして帰って行った。

ある日、則長が「刀が出来上がりました」と寺へやってきた。お坊さんは「どうせ大した刀ではないやろ。もう

いらん」と、中身も見ずに突き返した。則長はかんかんに怒った。「丹精込めて作り上げた刀を、見もしないで返すとは」。

そこで則長は、「刀が切れないかどうか、ご覧に入れましょう」と言うや、その刀で、門の屋根を支える肘木をス、ハツと切り落とした。

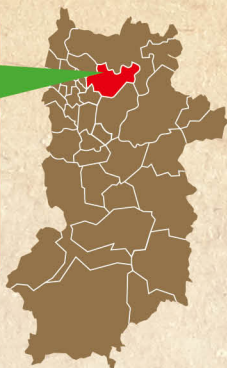
お坊さんは驚き、「私が悪かった」と謝り、刀を受け取った。それから、肘木が切られた門は「肘切り門」と呼ばれるようになった。

長岳寺は、天長元年（八二四）、淳和天皇の勅願、空海の創建とされる古刹。鎌倉時代は興福寺の末寺となり、盛時には塔頭四十八、僧兵など衆徒三〇〇余りを数えたという。時代とともに栄枯盛衰を重ねた。今は「花の寺」としても有名だ。

一万二千坪の境内は、四季折々、美しい花々で彩られる。四月は、桜に続き、下旬からは平戸つつじの燃えるような紅色が広い境内を圧倒する。

### 物語の場所を訪れよう

長岳寺（天理市柳本町）へは…  
JR万葉まほろば線 柳本駅より東へ約1.5km



### 長岳寺

長岳寺には、日本最古の鐘楼門（重文、写真）がある。他にも重要文化財の建造物や仏像と四季折々の花が楽しめ、秋の紅葉も有名。山の辺の道の散策とあわせて楽しめる。江戸時代に再建された大門（肘切り門）は、寺の入り口となる。

10月23日～11月30日には、九幅の掛け軸で構成され、全体で縦が約3.5m、横は約11mの一枚の絵となる大地獄絵（県指定文化財）が開帳される。期間中は、住職による「絵解き」も随時行われている。

問 長岳寺  
☎0743-66-1051